

## ESMO-GI 2018 での発表を終えて

このたび、6月23日に、スペインのバルセロナにおいて開催された ESMO-GI 2018 にて、ACHIEVE 試験の長期フォローアップデータについて発表させていただきました。最終日の colorectal cancer のセッションの中の oral presentation であり、メイン会場に世界じゅうの oncologist が集まる中での大舞台です。地域の一若輩外科医である私には、荷が重い役割ではありましたが、無事終了することができました。本格的な海外学会での英語でのプレゼンテーションをすることは、実ははじめてで、無名な選手がオリンピックの決勝に臨むようでした。4月にこの仕事をいただいてから、約2か月の間、吉野先生、山中先生に徹底的に御指導いただき、頭の中で唱えたのを含めると1000回は、リハーサルを行いました。仕事の合間で、native speaker に病院のタリーズコーヒーでレッスン(「タリーズ留学」)、また、ASCO の oral presentation の動画、ヒラリークリントンやスティーブジョブスのプレゼンの動画を観て、彼らの間のとり方や、目線、身振り手振りも研究しました。できることはすべてやったと、準備万全のつもりでバルセロナに入り、6月21日、6月22日とメイン会場で、様々な発表を観ていたのですが、けっこう下手な英語やいまひとつな完成度のプレゼンも散見され、その時点では、これくらいなら大丈夫だと思っていました。ところが、6月23日、発表当日、同じセッションで私の前に発表した、Heinz-Josef Lenz と Axel Grothey の完璧なスーパープレゼンテーションを聞いていくうちに、私の緊張はピークに達しました。やはり大本命はミスしないのです。私の状況を察してか、吉野先生が、「ここまで一生懸命やってきたのだからおもしろいやら、大丈夫だ」と激励してくれました。テレビで見るフィギュアスケートの演技前のコーチと選手のシーンを思い出しました。発表が始まると無心でした。多少、言葉が詰まったところはありませんが、いわゆる転倒のような大きなミスは侵さず、自分をだしきることはでき、後悔はありません。最後のスライドに切り替わった瞬間、心から、We would like to thank all of the patients and families, all investigators of ACHIEVE study team, Thank you!! と叫ぶことができました。発表までのプロセスは厳しいものでしたが、本番の壇上は、すごく爽快だったというのが私の感想です。今回の経験により、外科医としての日々の臨床における化学療法、癌治療の考え方も大きくパワーアップできたと思っています。ACHIEVE 試験、IDEA collaboration により、大腸癌の補助化学療法が大きく変化をしていく中で、一つの大切な役割を与えていただき、感謝しております。お忙しい中、時間を割いてくれた、吉野先生、山中先生をはじめ、すべての関係者の皆様に心から御礼を述べたいと思います。

手稲溪仁会病院 外科医長 武内慎太郎